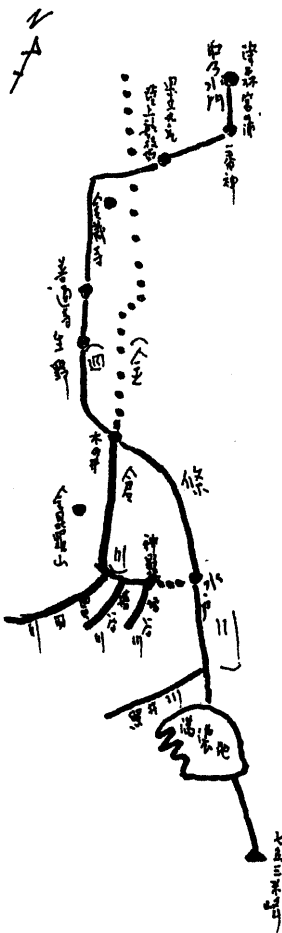


西鳴八兵衛と金倉川

宮武 進

西鳴八兵衛は遠州浜松の人、十七歳の時、伊勢津藩主藤堂高虎に仕える。元和七（二八二二）年、讃岐国



讃岐国

主生駒正俊没し高俊十一歳で襲封、幕府は外祖父藤堂高虎に後見を命じる。讃岐仕置のため八兵衛を派遣す。讃岐は昔から畢魅が多く水不足に悩まされていた。幕藩領主の経済的基盤である年貢米の上納を確実にするために水を保し稲作の生産を高めることが重要であった。八兵衛は経済の才あり、又、土木技術に優れていたので讃岐各地を巡り溜池の新増築、河川の改修をして灌漑、治水をよくし開拓を進めるなど農業生産を安定させることに意を注いだ。因に八兵衛が手掛けた県下の主な溜池は満濃池を始め三谷池、小田池、福江大池、岩瀬池、一の谷池、井閑池など凡そ百に近い。河川の改修も香東川の二股の東の一筋を堰き、高松城下への氾濫を防ぎ、個條川も吉野水戸で堰き西へ新たに神野橋迄の間、人工河川を作り旧金倉川と合流させ且つ木の井橋以西の四候川を廃し、現在の金倉川を新設した。開拓事業も高松、丸亀、三豊平野で新田を開いた。八兵衛は功成り寛永十六（一六三九）年伊勢に帰国した。その翌年生駒騒動が起り高俊は讃岐国を国除された。幕府は領地受渡に際し讃岐国の事情に精しい八兵衛を藤堂高虎より借用し、特に朱印を与えて上使の案内役をつとめさせた。のち幕府直轄領五万石を支配する城和奉行伊賀奉行を命じられ居を伊賀上野に移した。この頃、松尾忠左衛門は八兵衛より土木技術・書道を学んだ。後の芭蕉である。さて、金倉川新設の事は大変な工期と資金を要したと思われるでしょうが、与北の買田池東の三谷旭も一農閑期（正月、四月）で完工している金倉川も同様だったと考えられます。資金にしても満濃池改修の付帯工事ですから郷普請です。扶持米は一日七合五勺ですから米千数百石です。昔の人は一日十二時間労働です。一人役二坪掘り。川床を全部掘削しません。左右の堤防を作るだけ振ります。中の残土は流水が流します。文献等から類推して

園です。

寛永五（二八二八）年頃、完工したに堆積した大量の土砂が海中に砂州を形成し、その砂州上に貞享五（六八八）年、京極高豊公が近江八景を模して造営したのが今の中津万象園です。